



抗がん剤による口腔粘膜炎（口内炎）の
痛みで食事が摂れない患者さんに
何かよい対処法はありますか？

抗がん剤による口内炎の発症率は？

口内炎は、
抗がん剤を
受けている

がん患者の40～70%に
発現するといわれている

《抗がん剤の種類による口腔粘膜炎の症状の例》



殺細胞性の抗がん剤（代謝拮抗剤）
による口腔粘膜炎



分子標的型の抗がん剤（mTOR阻害薬）
による口腔粘膜炎

抗がん剤による口内炎が及ぼす影響

発語困難による
コミュニケーション低下

経口摂取の低下

生活の質の低下

栄養状態の低下

がん治療に対する
治療意欲の低下

粘膜障害の加重

抗がん剤の中止→治療効果↓の可能性

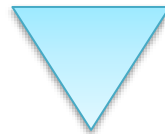
口内炎による摂取低下は負のサイクルです



抗がん剤による口腔粘膜炎（口内炎）の
痛みで食事が摂れない患者さんに
何かよい対処法はありますか？



食事を摂取するとき、口内炎を保護
できたらいい！



エピシルを用いるという方法があります!!

エピシル® 口腔用液 とは？

- 局所管理ハイドロゲル創傷被覆・保護材
- 化学療法や放射線療法に伴う口内炎で生じる口腔内疼痛の管理及び緩和を物理的作用により行う



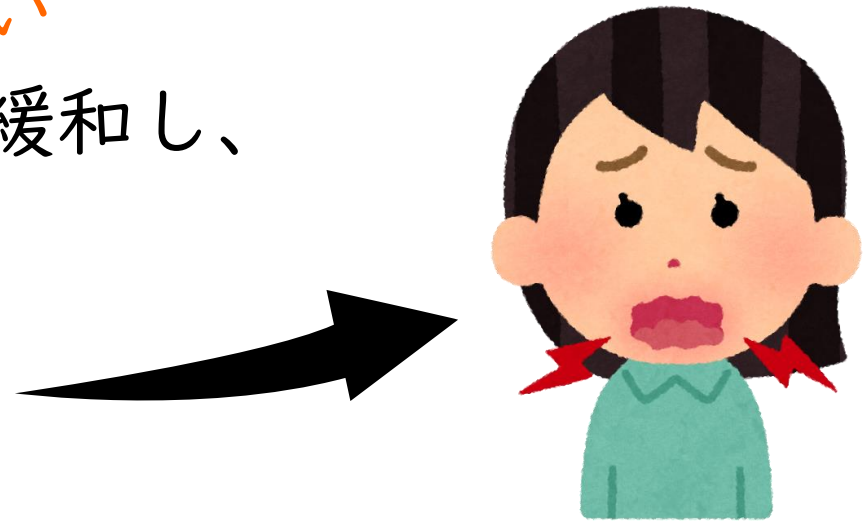
口腔内病変の被覆及び保護する

非吸収性の液状機器

口腔粘膜に適量を適用すると数分以内に
口腔粘膜の水分を吸収してゲル状になり
物理的バリアを形成する

エピシル® 口腔用液 とは？

- 脂質ベースの液体
- 口腔内に使用すると口腔粘膜を覆う強固な生体密着保護膜を形成する液剤
- 口内炎患部を物理的に覆うことで保護することが可能
- 医薬品ではないため治療効果はない
- 使用後数分以内に口腔内の疼痛を緩和し、その効果は8時間程度持続する
- 口腔内の疼痛により食事が困難になるケースがあり
エピシル口腔用液は、疼痛軽減により生活の質を維持する



エピシル口腔用液は 歯科医師に処方権がある医療機器

- 医師は処方することができない
- 歯科医師が必要と認めた時に
院内で患者様へ使用方法を説明
して医療給付する



○ 保険償還価格

販売名	償還価格	原価計算方式		外国平均価格 との比
<u>エピシル</u> 口腔用液	752 円/mL	製品総原価	588 円	1.06
		営業利益	44 円 (流通経費を除く価格の 7.0%)	
		流通経費	65 円 (消費税を除く価格の 9.3%)	
		消費税	56 円	

留意事項案

- ・がん等に係る放射線治療又は化学療法を実施している患者であって、周術期口腔機能管理計画に基づき、口腔機能の管理を行っている患者について、放射線治療又は化学療法に伴う口内炎に対して使用した場合に原則 10 mL を限度として算定する。

○技術料

診療報酬改定に伴い新規技術料を設定する



経口摂取の低下

栄養状態の低下

粘膜障害の加重



当院フォローの抗がん剤による口腔粘膜炎（口内炎）
の痛みで食事が摂れない患者さんがいたら
内線 7587 に ご相談いただければ
主治医→院内歯科医受診対応いたします